

◆ 平成29年度活動報告シート ◆

団体名：生ごみ110番埼玉

20A-52

代表者：代表 上領園子

URL :

1. 活動が必要とされた状況

昔、竹は日用品から建材にまで使われていたため竹林の手入れは良くされていましたが現在はいたるところで竹林は放置されています。しかし竹の力は大きく竹を針状のチップにすることで用途が広がります。生ごみと混ぜることで生ごみを分解消滅させます。又、堆肥にすれば肥料効果は大で多めに施肥すると作物は枯れてしまうほどです。家畜の敷き藁の代用にもなります。そこで沢山の竹を切る必要があります。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

2017年12月23日ほとんど恒例になっている生ごみ処理器「くうたくん」の利用状況の発表会を行いました。場所を借りるために会費2千円の食事会にしています。その時、環境問題のいろいろな現状を話します。これを楽しみにして、夫や高齢の母親、家庭を持った娘を連れてくる方も時にはあります。この日の参加人数は19人でした。

2018年1月20日川角地区の馬頭観音横の竹林で電動チェーンソーの説明講習会を兼ねて竹切りを7名で行いました。簡単に切れました。しかし、若い竹でチップにはできそうもなく持ち主は不満そうでした。

3. 活動の成果

電動チェーンソーは思った以上に簡単に竹を切ることができました。普段、エンジンチェーンソーで切っている男性には少し物足りないようでしたが、女性としては大変ありがたくこれを使って今後は女性も竹切りに参加できます。

4. 今後に残された課題

竹林の持ち主の多くは、放置している竹林にお金を出して整備する考えにはならないようで今後の大きな課題となっています。今まで公の場などで燃料費もこちら持ちでやってきたことの弊害もあるかもしれないと思っています。

また、昨年、竹の効用の宣伝効果が最も大きいと考え町長宅の農園に野菜用10a分の竹堆肥を送りましたが、結果は当農園の堆肥場に一緒に「ぶんなげた」とのことでした。

家庭菜園ではなかなか宣伝効果は低くつい多めに施肥しまい、植えたものを栄養過多で枯らしてしまったりもしています。

正しく知ってもらう為の工夫がなされなければこの事業の発展はないと思っています。



竹チップを使ったごみ処理器「くうたくん」利用者の集まり